

---

# エレメント

ヴィス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Hレメント

### 【著者名】

NZマーク

### 【作者名】 ヴィス

### 【あらすじ】

水谷流之は靈南高校の入学式に水の精霊のウンディーネに逢つ。  
それは、悪魔との戦いの道しるべ。

## HIMENTO(前書き)

初めましての方は初めまして、ヴィスです。

この作品のテーマは『現代』と『ファンタジー』です。  
そして、笑いあり、戦闘あり、涙ありの小説にしていきたいと思つ  
ています。何卒、よろしくお願いします。

## Hメント

俺の名前は水谷 流之。これから靈南高校に入学する1年生。

「ほーら、早く行くよ」

で、この人が俺の姉兼世界史の先生。名前は水谷 舞由里。

「ちょっと、引っ張るなって」

この姉はホントに困った人です。何せこの姉は酒癖が非常に悪いのだ。そのせいで俺はプロレス技を何回も掛けられていた経験がある。

朝、靈南高校に着く。うわー、結構デカイな。面積どれくらいなんだろう。

「舞由里先生お早うござります」

「おはよう」

女子生徒が姉貴に挨拶をする。以外と慕われているんだな。

場所は靈南高校の体育館。入学式の始まりだ。

これから俺はこの学校で生活をするんだ。楽しみだな。

『おーい、そこのお主』

ん？ 誰か呼ばれたような…… 気のせいだよな。俺の知り合いはここにはいないはず。

『お主じやよ』

ポンと現われたのは水色の髪に水色の服。しかも小さい。え？ 何これ？ この学校つて幽靈がいるの？

何がどうなつてんだよ！ パンフにはんなの書いてないぜ？

『安心せい。私は特別な人間にしか見えない』

と、特別？

『私は水の精霊のウンディーネ。そしてお主は私の主人になつたのじや』

あ、主人？ 精霊？ 一体なんのことだよ。そもそも特別な人間つて……わけわかんねえ。

『お主を見込んで頼みがある。私と契約をしてくれないか？』

は、はア？ 契約？ なんのこと言つてんだよ。

「つか、お前と契約をして何すんだよ！」

『ここに来る悪魔を倒す。それだけじや』

「……その悪魔は何体いるんだ？」

『分からん、少なくとも1000は軽く行く』

『冗談じやない。んなのやつてやれるか、そんな捨て台詞を言つてク

ラスへ移動。

時間は放課後、あのウンティーネとか言つ奴の言つていた悪魔は全然来なかつた。

「帰るか」

わつわと帰る準備をして家へ帰宅。しようとしたら、ズドンと爆発音が聞こえる。最初は何かの撮影かなつて思つたが、こんなデカイ学校で撮影するなんて考えられなかつた。

音がする場所に移動すると、何かのクレーターがある。まさか、アソツが言つていた悪魔じや……いや、考えられん。悪魔なんてしょせん架空の生き物であつて実際にいるはずない。でも、実際精霊になつてしまつた。それは事実だ。

「くへっそおおーーー！」

「ちよつ、流之ー！ そつちは危ないわよー！」

悪魔の姿は見えない。移動したか。

爆発音から数秒経つてからそつ遠くには言つていなはづだ。  
どこだ？ どこにいる？

『お主、何をやつてこる』

悪魔を探していたらウンティーネに出合つた。調度いい、俺の気持ちを伝えなきや。

「ウンディーネ、俺はお前の主人になる」

『し、正氣か?』

「俺は本気だ」

真っ直ぐと眼を見る。俺が本気だと。

「……まさに黒川にアドバイスをして貰ってます

「男に一言はないぞ？」水谷流之

『我が名はウンディーネ、主人は水谷流之。我が契約に従い、我が力は主人へ』

「ツ！？」

か、身体が……痛いつ！

『頑張るのだ、主人！ それさえ我慢できれば主人は悪魔を倒すことが出来る』

「ガアアアアアアツ！－！－！」

スッと何かが入る。するとさつときまでの痛みが嘘のよつに消える。

『私は流之の中にいる。だから力が漲るのじや』

「よつしゃー！ 行くぜー！」

『あまり調子に乗るなよ。私との融合は体力の消費が激しい』

「分かってるよ」

『フツ、では行くぞ』

「ああー！」

ウンデイーネによると、その融合とは、特殊な力があると言つ。しかも、精霊によって特殊な力が異なるらしい。ウンデイーネは千里眼、シルフはスピード、サラマンダーは力、ノームは防御がそれぞれ高い。

「見つけたぞこの悪魔！」

『この悪魔はアモン、口元から炎を吐き出すから気を付ける』

「了解」

猿みたいな格好しやがつて。ふざけているのか？

「ていー！」

右ストレートで攻撃。しかし、素早いアモンは避ける。ちょこまかと……っ！

『大丈夫だ。今のお前は眼がいい。必ず相手の攻撃パターンが読み取れるはずじや』

……よし。

神経を集中させて眼を瞑る。相手の音、軌道を読むんだ。  
段々近づいてるのが分かる。ここだ！

「たあ——っ……」

右フックが破裂。すると悪魔は徐々に姿が消える。終わった……のか？

『うむ、お疲れじや。これから悪魔はこの学校を襲つてくるだろ？  
日々是精進じや』

「ああ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7253x/>

---

エレメント

2011年10月19日09時22分発行